

第1195回教育委員会（定例会）会議録

公 開

1 日時場所

令和8年7月28日（火） 午後2時
県庁教育委員会室

2 出席者

太田教育長、小林委員、井口委員、三井田委員、松山委員、吉田委員
（事務局）鶴巻教育次長、頓所次長、角総務課長、中條財務課長、佐藤福利課長、
川村義務教育課長、今井高等学校教育課長、中田生徒指導課長、
庭野生涯学習推進課長、志田保健体育課長、石山教育センター所長、
総務課企画主幹、総務課長補佐、総務課総務係長、総務課総務係主事

3 開会

午後2時

4 議事日程の承認

第1195回教育委員会の議事日程及び議事順序を承認した。

5 審議議案

第9号議案 令和9年度に県立義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択について

事務局から、令和9年度に県立義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

6 その他

(1) 令和8年度全国都道府県教育委員会連合会第1回総会について

令和8年7月16日から17日まで香川県高松市で開催の令和8年度全国都道府県教育委員会連合会第1総会について、参加した委員から意見や感想等が報告された。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

井口教育委員

7月16、17日と香川県高松市において標記の会議に参加させていただいた。太田教育長と会議に参加し、非常に勉強になった。ネクストハイスクールの結果が出た直後ということもあり、その場でもやっぱり大きかった。

教育委員の会議では高等学校振興課長から、ネクストハイスクール構想の採択についてのお話もあった。

この時の話でびっくりしたことだが、文部科学省の中で高等学校

という名前のついた課は、この4月に初めて作られたそう。つまり、それまでは高等学校という名を冠した課はなく、義務教育はもちろんあったし、大学もあったが高等学校は抜けているようなところがあって、そこに今後力を入れていく必要があるということの表れだろうということかなと思っている。

ネクストハイスクール構想に関しては、皆さんもすでにご存じの通り179の提案があって75が採択。40%ぐらいの採択率だったということで、残りの部分に関しては何とか頑張っただけというところでフィードバックをかけて、今現在一生懸命に作っていらっしゃるところかなと思う。

採択されたところのお話を伺ったが、地元の大学との連携とか、大学で学ぶような内容を、一緒にやっていくというところが非常に評価されているというふうに感じた。岩手県では、半導体を作る課を作っていきたいとか、愛媛県では造船業に関するところはかなり力を入れている。それは大学と連携し、大学で教えるような内容を一緒にやっていくというお話だった。

他にもいくつかあったが、大学と連携した教育内容、大学の学びを高校にまで下げて、高校でどう学べるかということを考えているのだなと感じた。

この話の少し前に、財務省が大学を4割減らすという報道があった。これから人口が減って就労者が足りなくなるという話も高等学校の課長がおっしゃっていたので、要するに大学を4割減らして、大学に行かなくてもいいから、とにかく高校を出たら即戦力として働けるような人を育成したいという、そういった裏の意味合いも少しあるのかなと感じながら見ていた。

特に私立大学の文系の大学の数が、これから先AIが発達していく中で、就職先として余る、事務方が余るという言い方をされていて、そうではなく理系とか、工業系とかの人材が足りなくなっていくので、そういったことが大事だともおっしゃっていた。

こういった話を聞くと、先ほど言ったように大学を4割減らし、働く期間を長く伸ばしていく、そういうことを目指す部分もあるのかなと思いつきながら聞いていた。

ただ、流れに乗っからないわけにもいけないと思っているし、ぜひネクストハイスクール構想で、地元の大学との連携、そして大事なことは、画一的な学びではなく、多様な学びができるということだと、口を酸っぱくしておっしゃっていたので、そういったことを考えていかなくてはならないと学んだ。

それから、働き方改革の話があったが、やっぱりAIが入ってきた中で、働き方改革をこれから推進していく必要があるということで、AIというと勉強とかその辺を考えてしまうが、そうではな

く、学校の中の校務についてかなりA Iでできる部分があるということで、校務で活用する学校が今増えてきている。そういった生成A Iを使うガイドラインみたいなものを、各県の教育委員会で作成して、学校に配布して使うようにしてもらっているとか、そんな話が出ていた。

翌日の分科会でも、ネクストハイスクールの話が出ており、採択された県、採択されなかった県等々あったが、やはり大学との連携とかそういったことを基に魅力的なものを作る方向でいくという話とか、公立高校が無償化の影響があるのではないかという中で、公立高校の魅力を高めるために考えていく必要がある。一方で、あまり無償化の影響がなかったという県もあって、色々な県があると感じた。

また、生成A Iを使うことについての話が出たが、生成A Iは使うことが大前提で、あとは生成A Iをどう生かして教育に使っていくかということ、これから考えていかなければならないし、今の子どもたちは我々以上に生成A Iを使いこなしていくわけで、特に小中学校生の考える力が弱くなるのではないかという懸念もあるが、そうは言っても使わない手はない。生成A Iを利用しながら、考える力と、もう1つ大事なものは、A Iを使うと知識を得られるが、そこから問いを立てること。問いを立てて、その問いにどう答えていくのか。或いはコミュニケーション能力が低下することが懸念される中で、どう教育の中でコミュニケーション能力をしっかりと培っていくのか。そういうことが話題として挙がっていた。

最後の視察では、我々は情報通信交流館に行かせてもらった。香川県が作っている情報通信交流館で、香川県におけるA I関係や、起業する人たちに対して、色々なサポートをする、そういう最先端の場所だったが、正直お金があるのだなというのを感じた。

駅に直結したところにある大きな建物の中にあり、起業を考えている人たちや、色々な方々が集まりながら、様々な業界、立場の人たちがそこに集まって、相談をしたり、ミーティングを持ったりするような場所が展開されていた。お金がないとこれはできないよなと思うような建物だったし、そこで雇用されている人たちもいたので、かなりお金をかけたシステムだと思った。

香川県は日本で最も小さな県であり、人口密度がかなり高いということで、経済的にもかなり潤っている県だという印象を受けた。そういうところで、こういう活動して、どんどん起業して人が集まっているということを感じた。

懇親会もあり、四国はあまり日本酒のイメージなかったが、教育長さんが四国の酒蔵を一生懸命に回って、4県それぞれのお酒が用意されていた。非常に良い勉強になる出張だった。

太田教育長	ネクストハイスクールは教育長の会議の中でも話題になっていた。中でもやっぱり大学の連携が必要だという話があって、それもその通りだなと思うが、文科省的には、県内の国立大学との連携が足りていないのではという指摘もある。 ただ、大学との連携も当然必要だが、連携する相手も、国立大学に限らず、例えば産業界でも連携が必要になってくるので、産業界、経済界が立ち上げた新潟工科大学とか、そういうところとも連携をしていくような仕組みを作っていかなければいけないと思っている。 働き方改革でA I 活用という話もあったが、教育現場は、特にデジタルが遅れているなという感覚を持っている。授業はともかく公務のデジタルは非常に遅れているので、そこはしっかり進めないといけない。いまだに紙文化という気がしている。
井口教育委員	A I が文章題とかを採点したり、授業計画を作ってくれるという話もある。そういうところで使うのは少し想定外だったので、こういう使い方をするのだと分かった。ガイドラインを県教委が作って、各高校とかにこういう使い方があるよという案を出しているということもしているようだ。
今井高等学校教育課長	ガイドラインについては新潟県でも、国のガイドラインをもとに、新潟県独自のガイドラインを作ったりとか、公務や授業で使うにあたって、こういうのは気をつけようというのをチェックリストも併せて作り、各校に提示している。
太田教育長	採点については、デジタル採点システムというものが一応ある。
今井高等学校教育課長	導入されているが、○×とか選択問題は自動化で、今新潟県が導入しているのは、文章題まで採点できるところには至っていない。そこは今後の研究だと思っている。
太田教育長	研究というか、そういう流れになっているので、導入前提で考えないといけない。
角総務課長	今年度に研究というか、やる予定である。
今井高等学校教育課長	教育情報化のプロジェクトチームの中では、デジタル採点システムの発展的なものを一つの玉として出している。
三井田教育委員	採点の精度というのは高いのか。

今井高等学校教育課長	やっぱり1回、教員の目で確認しないと「ア」と書いてあるものが「イ」と読めたり、間違ふことがある。○×については、よく確認するのは当然だが、文章題であれば尚更もう一回よく見なくてはならないと思う。
井口教育委員	大学の授業でレポートがPDFできて、ワープロで打ち出されてくるが、結構しっかりと読んでくれて本当にびっくりするぐらい。医学教育では、AIの採点は非常にばらつきがないと言われている。人が採点するとばらつきがすごく多いが、AIは全くばらつきがなく、ほぼ同じぐらいの点数になったという。再現性がかなり高いという結論が出ていて、今後そういうふうになってくるのかなという感じがした。
三井田教育委員	逆の意見だが、先生方の立場からすると、○×はAIでいいが、例えば文章題だったら、「この子はここまでは理解していた」とか、採点しながら先生方が感じる。現場の先生方は、文章題の採点というのは、どう思っているのか。
今井高等学校教育課長	私も同じ感覚は持っているが、今発展的なものになると、さらに分析みたいのところまでやれるようなので、どこが間違いやすいとか、この子はこういうところが苦手みたいのところまで、AIが分析をして次の指導につなげるという話がある。 人間の肌感覚として、この子はこういうところが弱いなという視点は大事だと、私も同じ教員として思う意見はあるので、両方が大事。AIに任せっぱなしではなく人間が入る余地は当然あると思う。
太田教育長	AIはツールなので、最終的には人間のフィルターを通さないといけない。

(2) 令和8年6月県議会における主な質問・答弁等について

事務局から、令和8年6月県議会における主な質問・答弁等について説明があった。

(3) 女性職員の活躍推進のための新潟県教育委員会特定事業主行動計画（第2期前期計画）の策定について

事務局から、女性職員の活躍推進のための新潟県教育委員会特定事業主行動計画（第2期前期計画）の策定について説明があった。

(4) 障害者雇用の状況について

事務局から、障害者雇用の状況について説明があった。

以上で、公開分の日程を終了した。

第1195回教育委員会（定例会）会議結果

非公開

7 公開分に引き続き、非公開と決定した議事に入った。

8 審議議案

第8号議案 新潟県いじめ防止対策等に関する委員会委員の委嘱について

事務局から、新潟県いじめ防止対策等に関する委員会委員の委嘱について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第10号議案 教職員の人事措置について

事務局から、教職員の人事措置について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

9 その他

(5) **県立学校の生徒指導状況について**

事務局から、県立学校の生徒指導状況について報告があった。

10 閉会

午後2時39分